

大学の世界展開力強化事業 取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 ー災害復興の経験を踏まえてー

【プログラムの目的・養成する人材像】

東日本大震災からの復興プロセスにおける貴重な経験を生かし、自然災害の多発するASEAN諸国との相互交流の下に、世界展開コンソーシアムを形成する連携大学間で、災害に対する強靱な国づくりを担うリーダーを養成する。

【構想の概要】

質の保証を伴うこの協働教育プログラムを連携大学とともに整備して、学生の相互交流と留学体験を推進し、被災地や復興プロセスを視察・学修して得た経験を自国に還元できる環境を整備する。それにより強靱な国づくりを担い国際的に活躍の出来る人材を育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ファカルティディベロップメントの推進

25年度に計9回実施した事業推進会議や、参加学生に対するアンケート調査を通じて、教育プログラムに関するPDCAサイクルを推進した。その結果は、全連携大学が参加したファカルティディベロップメントシンポジウム(25年11月に京都で開催)において公表するとともに、26年度以降の交流計画へと反映された。

○ 国際協働教育プログラム履修に関するサーティフィケートの発行

2ヶ月間の交流プログラムを含む、強靱な国づくりを担う人材育成のための国際協働教育プログラムを履修した学生に対して、サーティフィケートを授与した。

(コースオリエンテーション)

○ 若手教員による国際協働講義の実施

交流教育プログラムに参加する教員のさらなる国際化を図るため、京都大学・ASEAN連携大学の若手教員が相互に訪問して講義を担当する、国際協働講義を実施した(25年度15回)。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(グループワークの様様)

○ ASEAN連携大学との双方向交流プログラム

タイの洪水被害の現場や東日本大震災の被災地の視察を含む、2ヶ月間の双方向交流プログラムを25年8-9月に実施した。日本人学生16名ASEAN連携学生15名の計31名が、8月には京都で、9月にはバンコクで共に学習する国際協働教育プログラムを設定し、同じ31名が2ヶ月間にわたって交流を深めた。

○ 26年度交流プログラム計画

8月に京都、9月にインドネシア・バンドンで、日本人学生・ASEAN連携学生合計31名による双方向交流プログラムを実施する準備を着実に進めている。26年度は上記に加えて、あらたに台湾成功大学から3名の学生が参加することが予定されている。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

25年9月に16名をカセサート大学へ派遣した。8月に来日した留学生15名とあわせた計31名が国際協働教育プログラムを共に受講して、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質を身につけた。

○ 外国人留学生の受入れ

25年8月にASEAN連携大学からの15名を京都大学で受け入れた。9月に派遣予定の日本人学生とあわせた計31名が、約1ヶ月にわたる協働教育プログラムを受講した。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	33	16	15	15
学生の受入	0	15	15	15	15

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 参加学生のフォローアップ

短期交流プログラムの実施時期以外にも、参加学生へのメールニュースの送付や学生を主体としたSNS上の交流を通じて、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質向上のためのフォローアップを実施した。

○ コミュニケーション能力向上への取組

英文レポート作成・プレゼンテーションに関する能力向上のための短期集中講習を25年6月に実施した。26年度も6月に同様の講習を実施する予定である。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 英文テキストシリーズの刊行

教育プログラムにおける関係講義のテキストを英文テキストシリーズとして刊行している(No.1~No.10発刊済み)。

○ 交流成果の発信

事業内容や交流実績を紹介するwebpage(<http://www.drc.t.kyoto-u.ac.jp/>)の充実や、ニューズレターの発行(26年5月にVol.4を発行)を通じて、交流プログラムの成果を広く発信した。